



上も下もない教室

3年生に道徳の授業をしました。学習テーマは、「あいさつ」。あいさつには力があると考えたときに、「あいさつは人を見逃さない」と言った子どもがいました。見逃さないとはどういうことなのか？この発言を聞いて、子どもは頭を傾けました。しばらくしてから、あいさつをすると相手に、「あなたのことを見ていますよ」「あなたを大切に思っていますよ」と伝えることができるのではないかと発言が続きました。

4年生の道徳の授業をしました。学習テーマは、「自ら学ぶ力とリーダーシップ」。自ら学ぶ力とは、目の前に起こった問題や学習課題を自分の事として捉え、解決の道を探り、やり抜くことであり、リーダーシップとは、人のために尽くすことだと教えました。そうすると、「わたしはこれまで友だちとけんかをしていましたが、そうではなくて、リーダーシップを身につけていきます。そうすればけんかはなくなります。」と考えた子どもがいました。この子どもは、けんかを繰り返して、何とかしたいと悩んでおり、どうしたらいいのだろうと自分に問うことをしていました。

教室は、いいものです。子どもは、自分の教室があって、座る席があって、誰でもない自分の居場所があります。教室にはいろいろなルールがあって制約はあるけれど、制約があるから自由が生まれます。ルールのない教室は自由ではなく、自分勝手な場所になるだけのことです。ルールのある教室で不自由を感じながら自由に過ごしています。昼休みに子どもに伝えたいことがあって教室に行きました。ちょうど漢字の再テストをしているところでした。100点満点になれば合格です。教師に採点してもらい、100点で喜んでいました。しかし、100点にならなかった子どももいます。「不合格でした。でも、私は再テストが好きです。テスト勉強して100点になれば大きな喜びになります。」と言いました。人と競うのではなく、できることを喜びにして、努力を楽しんでいるようでした。

ことばが乱暴で人に誤解を受けて、考え方まで乱暴になってしまう子どもがいました。考えが乱暴だと学習でも思うように進まず、あきらめるのが習慣になっていました。その子どもが今、「校長先生、おはようございます」と力強くあいさつしてきます。ていねいなことばを使って話します。「ぼくは、近頃、いろいろなことができるようになりました。」と胸を張っていました。

教室には、ドラマがあります。教室で笑ったり喜んだりします。悲しみもあれば許せないこともあります。それでも、顔を上げて、許し合い、励まし合います。ときには孤独だったり人の温もりだったり。教室はいろいろなことがあって、上も下も中もない世界です。